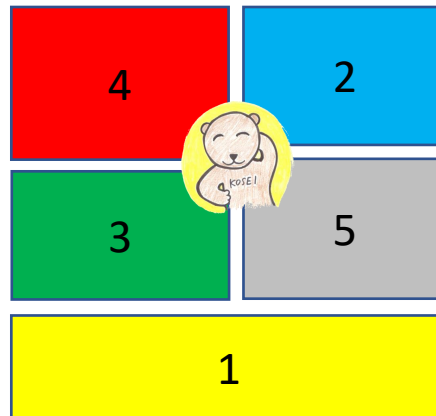


場面事例から学ぶ 5 ピクチャーズ・メモv1.1

— 本人を見失わないために —



駒澤大学 佐藤光正

5 pictures

(K.Sato)

関わることは
「問い続ける
ことである」

Powerlessness

Problem /Needs

Pic
4

picture 4
ズレを問う

「現在生じているニ
ーズや本人の思いは？」

Empowerment

Pic
2

picture 2
将来を問う

「良かれと思う
(こうありたい) 将来の自分
や生活は？」



Pic
3

picture 3
今を問う

「現在の自分や
生活は？」



Plan

Pic
5

picture 5
近づくための
方法を問う

(「見通し」を開く目標を設定する)

本人に意味ある
ことを実施する

Intervention / Support
/Recovery

ズレ

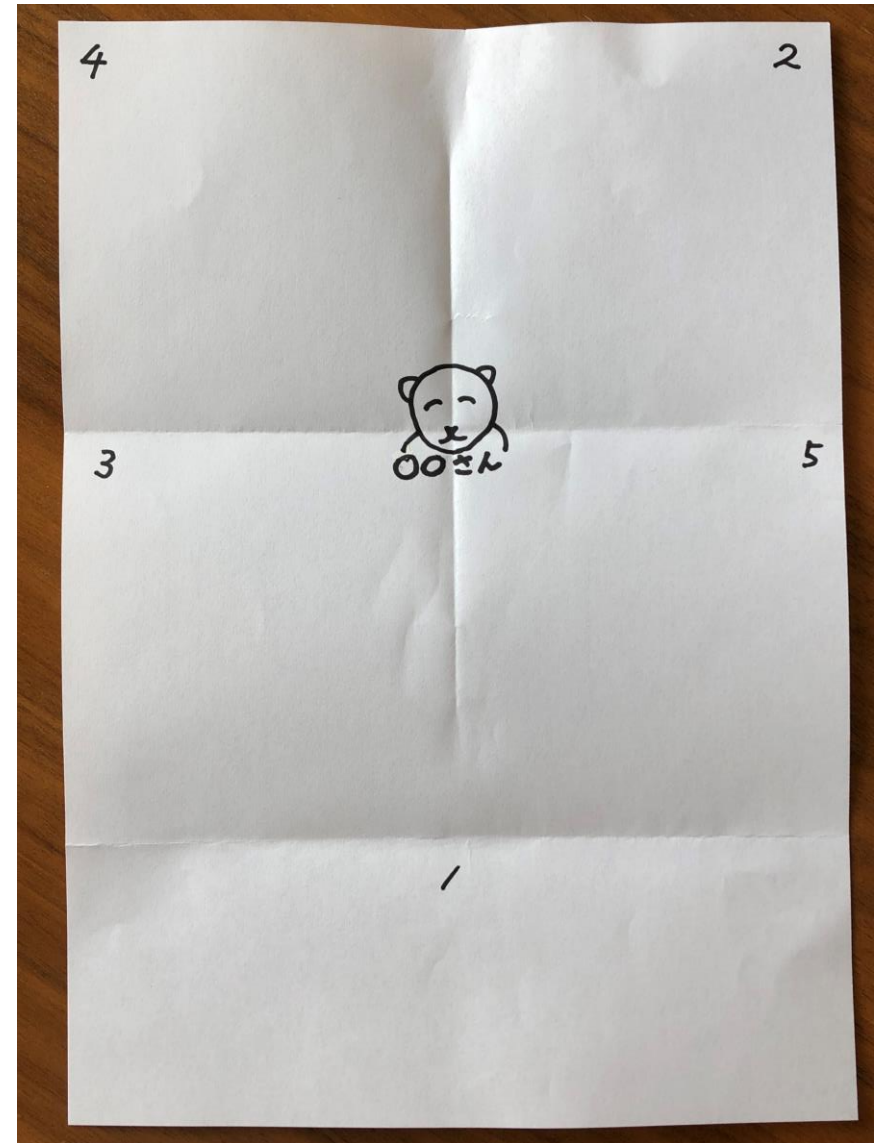
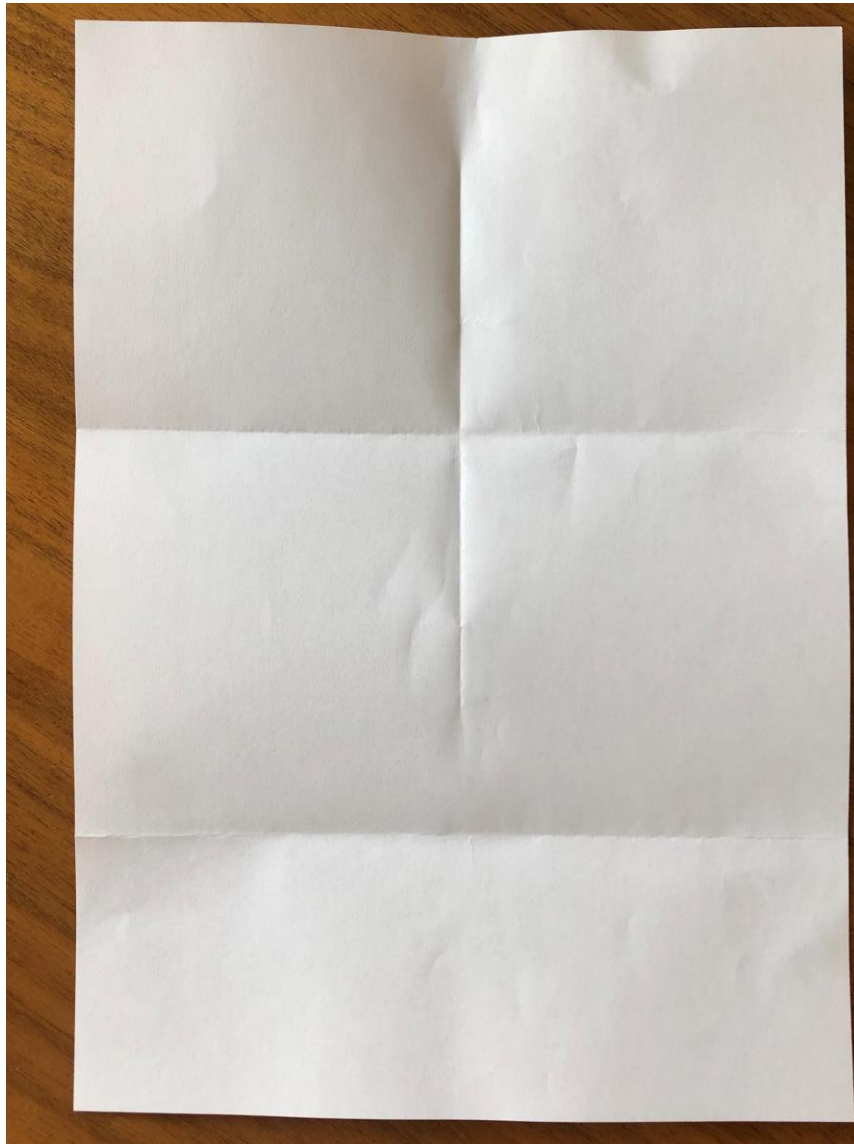
ストレングス視点に基づき
支援を俯瞰し、資源を活用

Pic
1

picture 1 常に問う

着目すべき支援の推進力となるものを問う？

5 ピクチャーズ・メモの準備



※ここではわかりやすくピクチャーナンバーも入れてあります

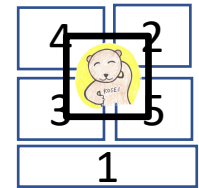
5 ピクチャーズ・メモについて

- 「本人中心」の5ピクチャーズを作成するために、**利用者**と**対話**をしながら**支援情報**を**整理**する**ツール**として開発したものです。（既存の情報整理にも使えます）
- 用紙は**A4白紙タテ置き**を**デフォルト**にします。
- 軽く折り目などをつけるなど工夫をすると**構造的な視点**を失わずに整理がしやすくなります。
- 用紙の**真ん中に本人**（〇〇さんなど名前）を登場させると、メモからすでに「本人中心」です。

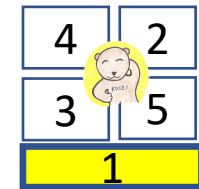
- **利用者が関心がある話題から対話**を始めるのがコツです。
- 言語的な表現が難しい利用者の場合も、**専門家として推測し、確認しながら進める**ことが原則です。
- メモは、複数回とることを前提に、Pic.5「近づくための方法」以外の場所は**どこからでも始められ、いつでも中断可能**です。
- 情報のごちゃつきが目立ち始めたら、途中で「**中間まとめメモ**」を作成して本人と確認するプロセスにしましょう。

情報を入れる位置について

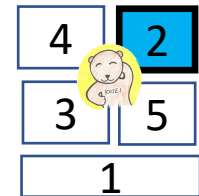
①**まず**、用紙の**真ん中に、主人公**の利用者〇〇さんを登場させましょう。本人が中心です。



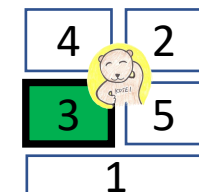
②**Pic1** は、話の中で**利用者や環境の力（支援に使えるかもと気づいた情報）**を入れるスペースです。良い情報に気づけると、支援を推進する力に直結します。



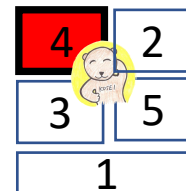
③**Pic2** は、**利用者の方が「良かれ」と思っているイメージや、こうありがたい将来像の情報**を入れるスペースです。ここが理想とする目的地です。



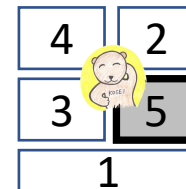
④**Pic3** は、**利用者の現在の生活状況**など、**過去のエピソード**も含めてざっくり記入します。生活歴の簡易版です。ここが現在地です。



⑤ Pic4は、**利用者の主訴やニーズ、思いなどの情報**を入れます。メモの段階では、ご本人の表現をそのまま入れたほうがニュアンスが伝わりやすいです。なお、「100字要約」づくりは、少し理解が進んだ「中間まとめメモ」あたりの作成が良いと思います。



⑥ Pic5は、**近づくための方法**、「そのためにどうするか？」**の情報**を入れます。さるのころです。また、この段階で、見えないところの**アプローチ**の**アイデア**（アプロエリ）アに、あると良いです。



→それでは、場面事例をとおしてメモを使った情報の整理法について学びましょう。
なお画面のメモは白紙ではなく、わかりやすく説明付きにしています。